

本校の実態

小規模校の特徴を生かし、きめ細やかな教育活動を行っている。落ち着いた中で授業が展開され、生徒の学習への意欲が育成されている。地域は学校に対して協力的である。

学校教育目標

・思考力に富む生徒を育てる
 ・実行力のある生徒を育てる
 ・情操豊かな生徒を育てる。
 を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格のあるたくましい人」を育てる。

育てたい生徒像

・学習、行事、部活動に意欲をもってとりくむ生徒
 ・思いやりある行動ができる生徒
 ・未来に向かって希望をもって進める生徒

学校経営方針（学力向上にかかわる校長の方策 要点）

・各教科等の指導では、生徒が自ら学び自ら考えることのできる教育計画を立てていく。また、指導方法についての創意工夫や改善を図るとともに、個々の生徒の能力に即した指導方法の開発を図る。
 ・新学習指導要領による教育活動により、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指していく。
 ・体力・運動能力向上に関わる取組の充実を図る

各教科の指導の重点

・意欲的、自主的な学習態度の育成
 ・基礎的・基本的な学習の充実
 ・体験学習、情報教育の充実
 ・読書力、漢字力、計算力の充実

総合的な学習の時間の指導の重点

・自分の良さの発見
 ・自分を生かすことができる能力
 ・情報を収集、活用する能力
 ・まとめる、表現する力

進路指導の重点

・自己を理解する姿勢
 ・主体的な進路指導の実行
 ・自らの生き方を探求（職場体験）
 ・自己の多様な可能性を発見

本校における「確かな学力」

○学習指導要領の各内容が理解できること

・基礎的な言語能力を身に付けようとする力
 ・資料を読み取り表現する力
 ・数の概念、計算力、数学的推論、論理的思考力
 ・現象を科学的に考える力
 ・目的や場面に応じて話したり聞いたり伝える能力（コミュニケーション能力）
 ・思考力・判断力・表現力等をはぐむ学習指導の展開を行う。

○特に総合的な学習の時間では

・新たな課題を探求する力
 ・課題をまとめる力
 ・自分の考えを発表し、自己を表現できる力

○学ぶ意欲を育成する

・おおたの子どもポスターにある「学びの場」を意識し、教育活動に臨む。

道徳教育の指導の重点

・自他を尊重し互いに敬愛する態度
 ・社会連帯の精神、奉仕する心
 ・正しい判断に基づき行動、人権を大切に
 する姿勢

特別活動の指導の重点

・いじめのない豊かな心
 ・責任感と自立する態度
 ・自発的、自主的活動
 ・社会の一員であるという自覚

生活指導の重点

・各種調査等を活用し問題点に気付く
 ・問題行動を見逃さない姿勢
 ・相互理解と協調的な人間関係
 ・家庭、地域社会、関係諸機関との連携
 ・規範意識、安全意識の育成

本校の授業改善に向けた視点

各教科・領域、学校・学年行事等におけるカリキュラムマネジメント

指導内容・方法の工夫

・一人ひとりのコミュニケーション能力向上のためにミニホワイトボードを活用し、クラス・学年を越えて考え等共有する。
 ・読書学習司書の配置に伴い、読書力・探究心を養い、思考力・判断力・表現力を向上させる。
 ・3年間を見通した学習指導をする。
 ・補充教室を実施し、学習に対する個別指導を充実する。

教育課程編成上の工夫

・小中一貫による9年間を見通した教育活動を行う。
 ・安全指導、ヘルスプロモーション（健康増進教育）の充実を図る。
 ・新学習指導要領の内容を理解し、見方や考え方の育成にかかる教育課程編成に向け準備を進める。

校内研修・研究の工夫

・各教科等において、読解力の向上を目指した指導の工夫・改善の研究を行う。
 ・コンピュータ・タブレット端末や視聴覚機材等の教育機器を活用する。
 ・ICT環境に合わせた授業を提案する研究を実践する。
 ・学校、学年、学級の連携による一貫した指導体制を目指す。
 ・新学習指導要領の内容及び解説の理解を図る

評価の工夫

・生徒、保護者に明確な評価、評価規準の作成および検証（発達段階に応じた目標設定）の情報を提供する。
 ・新学習指導要領の考え方に基づく評価の工夫
 ・信頼される評価
 ・ICT活用の評価の工夫

家庭や地域社会との連携の工夫

・学校、学年通信等を活用し情報を計画的に提供する。
 ・授業公開、授業参観等を利用し、家庭や地域と連携した教育活動を連携する。
 ・学校支援地域本部（SSI）の協力を得て地域と連携した幅広い学習活動を行う。

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、自他ともに「話を聞く・考える・表現する」のメリハリをつけた授業展開を考えたことにより、主体的に取り組む態度が徐々に向上してきた。その結果、思考・判断・表現の力が少しずつだか身に付き始めている。
- ・第3学年は、既出漢字を中心に授業内テストを繰り返すことにより、言語についての知識・理解・技能が向上した。それに伴って、文学的文章に関する読解力も向上した。

(2) 課題

- ・第1学年は、全体的には目標値を上回っている。文章全体の構成を捉えることや、文章の描写を捉えることはできているが、話の内容が明確になるように構成を考える力、表現の効果を考える力に課題が見られた。
- ・第2学年は、全体的には目標値を上回っている。小学校で学習した漢字の読み書きの習得が不十分であること、場面と描写を結び付けての内容理解に課題が見られた。
- ・第3学年は、全体的には目標値を上回っている。文章全体を捉える力や文章と図表を結びつけて内容を読み取る力、内容を明確にして書く力に課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 1. 7ポイント 下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 3. 2ポイント 下回っている。	前年度より 0. 9ポイント 上回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に区の目標を上回っている。ことわざなどの語句に関する知識に課題が見られる。	全体的に区の目標を上回っている。構成を考える力や表現の効果について考える力が身につけば、さらに改善できると考える。	区の目標を上回っている。特に、自分の考えを明確にする力、話の内容を捉える力に優れている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合的には区の目標を上回っているが、部分的に下回っているものもある。中学校の新出漢字は身に付けているが、部首についての理解と小学校での既習漢字の習得に課題が見られる。	全体的に区の目標を上回っている。文章のおおまかな理解、文章表現はできているが、細かい部分の読み取り、文章を書く時の構成力に課題が見られる。	昨年度より、区の目標値より、上回っている。読み手の立場、自分の考えを明確にする力に優れている。他者への理解が高まると更に伸びると考えられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に区の目標を上回っているが、歴史的仮名遣いへの理解や古典読解に関してはさらなる努力が必要だと考える。	文章全体を捉える力や文章と図表を結びつけて内容を読み取る力、内容を明確にして書く力に課題が見られる。	区の目標を下回っている。自分の考えを相手に伝えるためにまとめたり、自分の考えを深めたりする活動に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語句調べや語句に関する活動を通じて、言葉に関するさまざまな知識を身につけさせる。	文章を書く際に構成を意識させたり、表現がもたらす効果について考えたりする活動を取り入れ、読解力や表現力を高める指導を行う。	互いの意見を交換することで違いに気づき、自分の表現を工夫する活動を取り入れる。また、メモを取りながら話を聞くように指導し、話の内容を捉える。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新出漢字に既習漢字を織り交ぜて、文や文章の中で使用したり、日常生活で使いこなせるようにしたりする指導をしていく。	場面と描写を結び付け、書き手の考えや思いを想像して読み取れるように、実生活の話題を盛り込んだ授業展開、学習を実施する。	引き続き、自他の考え・意見を読み・聞きしあい、適宜メモを取らせることで、考えの多様性を理解させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き既習漢字の小テストを通じて知識の定着を図る。また、古典読解の折には基礎知識を復習しながら古典を読み解く活動を取り入れる。	文章全体と部分の関係を比較したり、文章と図表を比較したりしながら読解する活動を取り入れる。また、指定された内容を踏まえて文章を書く活動を積極的に行う。	引き続き、国語への興味関心を高めるとともに、互いの意見を伝え合ったり表現の良いところを認め合ったりすることで、さらに意見を深め、もっと活動したいという意欲が高まるように指導していく。

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、昨年度の課題を踏まえ、社会的事象の関連性を各種統計資料から読み取り、根拠を基にした論理的な思考力の伸長を図る機会を増やした。その結果、思考・判断・表現に関わる力に向上の兆しが見られる。
- ・第3学年は、昨年度の課題を踏まえ、資料から適切な情報を読み取る機会を増やし、技能向上を図る機会を増やしたため、知識・技能に関わる問いの正答率が向上しつつある。

(2) 課題

- ・第1学年は、観点別にみると「知識・技能」の観点において、既存の知識と資料を関連させて捉える力に課題が見られる。また「思考・判断・表現」の観点において、各種統計資料と社会的事象を関連付けて考察する力に改善の余地が見られる。
- ・第2学年は、観点別にみると「知識・技能」の観点において、既存の知識と各種資料等を関連付けるなど、情報や資料の「活用する力」に改善の余地がある。
- ・第3学年は、観点別にみると「思考・判断・表現」の観点において、既存の知識を用いて多面的・多角的に様々な社会的事象と関連付け、情報や資料を活用する力に改善の余地が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 6.4ポイント 下回っている。	下回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 1.9ポイント 上回っている。	前年度より 2.9ポイント 上回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに小学5年時の日本地理の分野において正答率が低い傾向にあり、既存の知識と資料を関連させて捉えることに課題が見られる。	おもに歴史的分野における政治的な動きに関する内容において正答率が低い傾向にあり、政治的な社会的事象に関する考察に課題が見られる。	おもに「気候」、「日本の食糧生産」、「政治的な社会的事象」における正答率が低いことから、社会的事象の特徴や流れの概要をつかむ力に課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1年時前半の授業内容である「日本の姿」、「世界の諸地域」、「古代の歴史」における正答率が低いことから、知識・技能の「定着」に課題が見られる。	「人々の生活と環境の関わり」や「農耕と人口増加の関係」における正答率が引くことから、複数の資料を関連させて活用する力に課題が見られる。	「世界の諸地域の工業」や「弥生時代の日本」における正答率が低いことから、外国や古代の歴史など、社会的事象を主体的に捉え、身近なことから問いを見出す力に課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野の「日本の諸地域」における「工業地帯の特徴への理解」や「日本の貿易について資料から読み取ること」の正答率が低いため、知識・技能の定着への課題が見られる。	歴史的分野の「キリスト教の広がりについての資料に対する考察」や「明治政府の特色についての考察」の正答率が低いため提示された複数の資料などから考察し適切な解答を導き出す力に課題が見られる。	歴史的分野の「キリスト教の広がりについての資料に対する考察」の正答率が低いため、学習内容に対する疑問や課題解決のための考察など、関心・意欲をもち主体的に学習を進めるための力に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の事前学習を活用して既習事項を確認したうえで授業を行う。そして、その知識を基に新出の各種統計資料を関連付けて捉えさせる授業運営を行う。	政治的な社会的事象を社会的背景や地理的条件を基に考察する機会を設け、根拠を明確にして、言語化、文章化する授業を展開する。	教科書やインターネット等の情報を基に社会的事象の大まかな特徴や流れを概括する学習を取り入れながら、生徒が主体的に学習課題を見出せる授業を展開する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の事前学習や本時の振り返り、前時の復習などを授業に取り入れ、知識の定着を図る機会を設ける。	社会的事象を複数の資料を関連させて考察する課題や、様々な資料を根拠に自分の考えをまとめたり説明したりする活動を取り入れる。	身近に起こる様々な社会的事象から学習課題を見出させる活動を取り入れる。また、時事問題から興味・関心を引き出し主体的に物事を捉えられる授業を実践する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前時の振り返りを行う機会を積極的に取り入れたり、まとめ学習の機会を増やしたりすることで、知識を定着する機会を設ける。	複数の資料を活用し、社会的事象に対して考察する機会を設けるなど、自分自身の答えを常にもって、学習に取り組めるようにする。	学習内容への疑問を調べたり、内容を深めたりする機会を設けることで、興味・関心をもって学習を進められるようにする。

令和4年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」では目標値を上回った。生徒の興味・関心を引き出すような課題設定を充実させた成果であると考えられる。
- ・第3学年ではすべての観点において目標値を上回った。

(2) 課題

- ・第1学年では「数の計算」に関する問題の達成度が他領域に比べて低かった。既習内容を丁寧に復習しながら中学校の学習を進めていく。
- ・第2学年では「数と式」に関する問題の達成度が他領域に比べて低かった。今一度1年生の基本的な計算を復習し、来年の学習に向けて基礎を定着させる。
- ・第3学年では「図形」に関する問題の達成度が他領域に比べてやや低かった。図形の性質に関する問題の達成度は高いことから、証明を論理的に構成する活動を重点的に取り入れる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 2. 1ポイント 下回っている。	やや上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 4. 5ポイント 下回っている。	前年度より 11. 3ポイント 上回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形や関数に関する問題では目標値を上回っているが、数と計算に関する問題では目標値を下回っている。	図形や関数に関する問題では目標値を上回っているが、数と計算に関する問題では目標値を下回っている。	図形や関数に関する問題では目標値を上回っているが、数と計算やデータの活用に関する問題では目標値を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比例のグラフ、作図、方程式の利用に関する問題では目標値を上回っているが、数と式に関する問題では目標値を下回っている。	全体的に目標値と同等の結果となっている。ヒストグラムを読み解く問題では目標値を大きく上回っている。	比例のグラフ、作図、方程式の利用、ヒストグラムに関する問題では目標値を上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を上回っているが、証明とデータの活用に関する問題では目標値を下回っている。	全体的に目標値を上回っている。特に四角形の性質に関する問題では目標値を大きく上回っている。	全体的に目標値を上回っている。特に四角形の性質に関する問題では目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算問題に丁寧に取り組む時間を多く設ける。また、机間指導では計算において特に丁寧な個別指導を行う。	複雑な計算問題に丁寧に取り組む時間を多く設ける。計算のルールや法則が理解できるように、実際の問題を解きながらルールや法則に納得できるような指導を行う。	教科書などで用意された数値ではなく、現実の具体的な数値を扱い、具体的な問題を解決するような時間を設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算問題、特に第1学年時に学習した内容を扱う問題に取り組む時間を多く設ける。また、机間指導では計算において特に丁寧な個別指導を行う。	引き続き、問題文や図、グラフを読んで、問題を解くには何をすればよいかを考える活動に丁寧に取り組み、生徒がそれを説明する機会を多く設ける。	自ら問題を見出したり、生徒個人の取り組みを共有したりする活動を多く設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
証明に関する問題を取り扱う際は、証明に必要な要素や手順を整理しながら、抜け目のない証明を論理的に構成する活動を重点的に取り入れる。	問題文や図、グラフを読んで、問題を解くには何をすればよいかを考える活動に丁寧に取り組み、生徒がそれを説明する機会を多く設ける。	日常生活に関連させた問題を取り上げるなど数学を身近に感じる工夫を行う。生徒個人の成長や成果を認め、励まし、次の成長へとつなげる声かけを行っていく。

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年では、実験観察の機会を多く設け、その結果から導き出される考察を記述することで理解を深めた。その結果知識・技能、思考・判断・表現が目標値を上回った。
- ・第2学年では、ICT教材を活用し、視覚的に資料を提示する機会を増やした。その結果「地球」の領域は目標値を上回っている。

(2) 課題

- ・第3学年では、主体的に学習に取り組む態度が下がっている。実験・観察に関して、なるべく少人数でおこない、基礎・基本をおさえる必要がある。
- ・第2学年では、全観点で達成率が顕著に下がっているため、ドリルや問題演習などを通して、基礎的・基本的に知識の定着をはかる必要がある。
- ・理科の学習では、単元により得意・不得意があるので、生命分野とエネルギー分野について各学年で授業改善を加えていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	上回っている。		
第2学年	前年度より 14.4ポイント 下回っている。	下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 3.6ポイント 上回っている。	前年度より 8.2ポイント 下回っている。	上回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。 植物のからだのつくりとはたらきの理解に課題が見られる。	目標値を上回っている。 水溶液の性質からの推察にや課題が見られる。	目標値を上回っている。 動物のからだの消化器官のはたらきについての理解に課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より7.4ポイント下回っている。 力や密度、濃度といった計算によって導く分野に課題が見られた。	前年度より10.2ポイント下回っている。 化石から当時の環境や年代を推定することに課題が見られた。	前年度より11.0ポイント下回っている。 中一植物の分野で、無回答が複数見られた。植物や動物のからだのつくりについての理解に課題が見られた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。 化合の際の質量の比をグラフ化することに課題が見られた。	目標値を上回っている。 気象情報から前線が通過した時刻を推測することに課題が見られた。	目標値を下回っている。 電気の配線について、身の回りでどのように活用されているのかについての理解に課題が見られた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・観察については、できるだけ実施するとともに、その目的を明らかにし、主体的に取り組むようにする。 基礎的な知識の蓄積が必要なので、小テストやドリルなど、定着のための方策を多くとる。	科学的な思考を要求されるような課題を設定し、事実と考察を明確にして表現する活動を取り入れる。生徒から多くの意見を引き出し、他者に正しく伝わるよう、正確な表現を互いに考える。	楽しい授業に取り組み、一人ひとりが積極的に授業に取り組むようにする。生徒全員参加ができるように、意見を出しあうような授業をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・観察においては、目的をはっきりさせ、そのためにはどのように実施するのかを明確にしていこう。 基礎的な知識の定着をさらに高めるため、重要事項については、くり返し学習するとともに、ドリル等を多用し、生徒自身が自信を持てるようにする。	科学的な思考を要求するような課題を多く設定し、生徒に考えさせる。合理的な判断ができるように、課題に対して、適確な表現でその解答を示し合える指導を心掛ける。	生徒全員が取り組めるような課題の設定をし、一人ひとりが参加できるような実験・観察を組織し、主体的に取り組めるような授業を展開する。 授業に参加することが楽しくなるよう、積極的な発言が多く出るような課題設定をし、その探求の過程を大切にする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・観察においては、目的をはっきりさせ、そのためにはどのように実施するのかを明確にしていこう。 基礎的な知識の定着を高めるため、重要事項については、くり返し学習するとともに、ドリル等を多用し、生徒自身が自信を持てるようにする。	科学的な思考を要求するような課題を多く設定し、生徒間で討論させる。合理的な判断ができるように、課題に対して、適確な表現でその解答を示し合える指導を心掛ける。	生徒全員が取り組めるような課題の設定をし、一人ひとりが参加できるような実験・観察を組織し、主体的に取り組めるような授業を展開する。 授業に参加することが楽しくなるよう、積極的な発言が多く出るような課題設定をし、その探求の過程を大切にする。

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・パート練習を生徒達自身で進めることができるようになった。
- ・自分の考えを、その根拠も併せて発言したり書けたりする生徒が増えた。
- ・様々な発声練習を通して生徒の技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・歌うことが好きな生徒は多いが、その中でも得意だと思っている生徒が少ない。
- ・自分の思いを歌唱表現に生かすことができる生徒が少ない。
- ・ICTを活用した授業の充実

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女ともに歌唱の技能がとても高い。知識については地道に教えていく必要がある。	想像力が豊かな生徒が多く、それを歌唱表現に生かすことができる生徒も多い。	男女とも全ての活動において意欲的に取り組んでいる。発言も活発で主体的な活動が行うことができる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男子の技能が女子よりも高い傾向にある。知識は全体的に高くないため、反復させる必要がある。	感じとったことを歌唱表現に生かすことができる生徒が多くない。	全体的に真面目に取り組むことができている。発言は知識に比べて思考・判断・表現の部分の発言が少ない。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高い意欲で取り組む生徒が多いため、技能がよく伸びている。また、考えることができる生徒も多いため知識もよく身につけている。	考えることができる生徒が多いが、それを歌唱表現に生かすことができる生徒は半分程度である。	自分達で協力したり、アドバイスし合ったりし、高い意欲で学習活動に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女ともきれいな発声ができているため、様々な発声練習を継続して行い、技能を更に伸ばしていく。知識は反復練習して確実な力を身につけさせる。	お互いの表現などを見合い感じたことを伝え合う活動をとおして様々な価値観にふれ、表現の幅を広げていく。	特に歌唱は高い意欲で取り組んでいるため、鑑賞や器楽でも発言しやすい発問を心がける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識に関しては、何度も確認し、反復練習させることで確実な力になるよう指導していく。技能は考える力を伸ばすことで更なる成長が期待できるので、自分で考えたことを技能であらわす活動を取り入れる。	言語化させる活動をとおして根拠と関わらせて考えさせる力を高めていく。また具体的な言葉やアドバイスで生徒の思考力を高める。	自分の表現や、考えたことを自信を持って発表できるような活動を増やし、発表することに慣れさせて自信をつけさせていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個別のアドバイスで技能を高めるだけでなく、自分で課題を見つけ自ら技能を向上させる活動を増やしていく。知識は、鑑賞については歴史的な背景を関わらせて理解を深められるように教材研究に力を入れ、授業の充実を図る。	自分たちで聴き合い、アドバイスする活動をとおして全体的な音楽表現のレベルアップを図る。今まで学習してきたことと関わらせて考えさせたり、発表させたりすることで総合的な音楽表現の向上を図る。	3年になり全体的な意欲が高まっているので、さらに自信をもって活動できるようにアドバイスをしていく。ICTを活用し、鑑賞や器楽についても高い意欲で学習させる。

令和4年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・感染症対策のためグループ活動が限定される中であっても、視聴覚機器やICT機器を活用することで、生徒がお互いの意見発表から共に学び合う機会を多く設定する鑑賞の授業を行い、思考力、判断力、表現力の育成に役立てられた。
- ・学習指導要領に伴う3観点の評価規準を生かした年間指導計画の定着や改善を図り、新たな題材や学習課題を開発することが出来た。

(2) 課題

- ・生徒が主体的に取り組める学習題材や、鑑賞の能力や発想や構想の能力の育成に関するICT機器を有効活用した新たな学習方法を開発することが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第3学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>様々な色彩が日常生活に生かされていることを知るワークを通して、造形的な視点について実感を持って理解を深めることができた。色彩の効果をにじみの色合いと墨色の表現を組み合わせた題材を通して、創造的な技能を高めることができた。</p>	<p>教科書の見開きページの屏風作品の鑑賞題材では意見交換をしたり、自ら選んで鑑賞した作品のよさや美しさを発表し合い聞き合ったりして、鑑賞の能力に伴う考える力を高めることができた。</p>	<p>鑑賞授業では視聴覚機器やタブレットが活用できたので、自分の意見を発表したり、自分以外の生徒の意見を聞いたりすることが容易にできた。お互いの作品を見合う活動を通して、互いを認め合いつつ、楽しく取り組むことができた。</p>

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
初めて使用する金属の材料体験を伴う題材では、材料の特性や用具を生かして行う打ち出しの方法が知識・技能ともに身につけることができた。	生活の中に生きるデザインの鑑賞授業では、造形的な特徴を基に目的や機能との調和のとれた美しさを鑑賞することができた。他の人の発表を聞き、見方や感じ方を広げることができた。	意欲をもって、表現および鑑賞の学習を行っている。表現・鑑賞ともに楽しく取り組んでいることがわかる。期末考査の得点結果からも、学習課題に前向きに取り組んでいることが感じ取れた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1・2年で習得してきた技能や造形的な視点を活用したり、意図に応じた資料を用意したりして、各自のテーマに沿って、表現方法を工夫して創造的に表している。	修学旅行に関連した日本美術や仏教美術の鑑賞題材では、それらの価値を深く考えることができていた。扇面画では、自分の思いを反映するテーマや題材の発想構想を深めることができた。	最終学年としての意識をもって、主体的に課題に取り組める生徒が多い。1・2年次から高い理解力を発揮していたので、今年度も課題の理解が早く、自ら主体的に取り組める生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校図画工作での学びを生かしたり、工夫を生かして取り組める課題を設定したりして、基礎的な知識や技能を確実に習得させ、表現の活動における技能や造形感覚を高める。	鑑賞授業ではタブレットの機能を生かした意見交換の方法を実施して、よさや美しさを味わう感じ方や見方を広げる。同様に、表現の発想構想にも意見交換の方法を展開させる。	学習成果を互いに認め合ったり鑑賞における意見交換を生かしたりして、他を認めるとともに自己肯定感も高めて楽しく美術の学習に取り組ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ピクトグラム制作では、タブレットの描画機能を生かして描かせ、手軽に描き直しや修正を行い、自ら技能を高められることができる題材に変更する。金属材料を用いた制作では、作業の工夫点をわかりやすく説明し、創造的な技能が発揮できるように指導する。	今までに経験したことのない題材を設定して、新鮮な気持ちで発想や構想に取り組み、豊かな発想力構想力を育む。タブレットの機能や視聴覚機器を活用した鑑賞の学習活動を行い、生徒同士の意見交換を生かして、美術の見方や考え方を広げる。	多様な見方や考え方による成果を互いに共有して認めあい、自己肯定感を高めたり、具体的に事例を取り上げて、指導者の立場から、学習成果を認める声かけを行ったりして、生徒が自信をもって学習に取り組めるように心掛ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校図画工作や中学校2年間の学びや既習事項を生かして、作品の主題や意図に合った技能を自ら選ばせて、創造的な技能を発揮させる。作りたい物に応じた作り方や材料や装飾の方法など、各自の知識技能を発揮させるように指導する。	自分を深く見つめて、発想構想の能力を発揮する題材を設定する。自らの主題を明確にさせたり材料や技法を考えさせたりして、考える力を育成する。鑑賞では現代美術や多様な美術表現の普遍的な価値を、自分なりの感覚で捉えつつ、他の生徒の意見も生かして、よさや美しさをより深く味わい、見方や感じ方を深めさせる。	義務教育最後の美術教科として、既習事項を確認させつつ、新たな技能も活用させることで主体的に取り組ませて、自分にとって最高の表現が出来るような授業展開を心がける。自己理解を深めさせるとともに、進路決定とも関連させて、達成感を感じたり、自己肯定感を高めたりすることができる題材を設定する。

令和4年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・運動量の確保や成功体験を積ませることにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。
- ・「走る」技能が全ての運動の基礎となることに重点を置き、指導することができた。

(2) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による、運動機会の減少に伴った、体力の低下。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理できたが、自分の言葉で説明できる生徒が少ない。授業内での運動量がとても多く活発である。	自らの課題を発見しようとする姿勢が弱い。	授業規律の確立・集団行動の徹底を通じ、安全に学習できる環境が整ってきている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団の中で活かせる技能までは至っていない。運動に対して苦手意識のある生徒の運動量確保が課題である。	自らの課題を発見し、解決しようとしている。自分に合った練習方法を選んだり、工夫したりする生徒が少ない。	安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が増えている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。運動量を確保しながら、個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団技能に繋がっていない。	自らの課題を発見し、解決しようとする生徒が増えてきた。提示された練習方法から課題解決に向けたものを選ぶことができるが、工夫する生徒が少ない。	安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。技能の向上を根底から支える、基礎体力を向上させるために、運動量を確実に確保していく。模範を示し、体の動きをイメージしやすいようにする。	課題を端的に、明確に提示する。また、練習の内容や技能向上に繋がるポイントを分かりやすく説明しながら授業を展開する。	運動や健康について興味・関心のある生徒が多い。安全に留意しながら、興味関心をかき立てる指導を継続していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。運動量を確保し、体力の向上を図りながら、基本的な技能に加え、発展的な技能にも挑戦していく。個人の技能は、全体に向けて発表・披露できるようにしていく。	指示を少なくし、練習の内容を生徒同士が工夫しやすいようにアドバイスを出していく。さらに、練習方法を提示し、生徒が選択して取り組むことができるようにする。	運動や健康について興味・関心のある生徒が多いため、安全第一に取り組むことを継続して授業展開をする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>運動や健康に関する知識が将来への関連性を意識させた学習をさせる。</p> <p>より高い技能を身につけられるよう、模範を示し、細かい技能指導を適宜行なう。ICT機器を活用しながら、模範との比較を行っていく。</p>	<p>練習の内容を生徒同士が考え工夫しやすいようにアドバイスを出していく。</p>	<p>生涯の豊かなスポーツライフの設計に繋がるように、身近な運動や健康な生活を実践するための姿勢を育む授業展開を行う。</p>

令和4年度 技術・家庭科（技術分野） 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・基本工具の使用技能を高めることができた。(工具の使用目的や使用条件をより分かりやすく解説、師範により実際に使用するときのイメージをもたせて実習に取り組むなどの工夫による)
- ・作品の完成度を向上することができた。(模範作品の提示、実習ポイントの明確化などの工夫による)
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進度を可視化することで効率を上げる。
- ・パソコンを活用して効率よく調べる技術を身に付ける。
- ・ノートやプリントを個別に確認することで、知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構想の表示方法についての知識を身に付けている。 工具や機器を安全に使用できる。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術の課題を明確にし、適切な解決策を見いだしている。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 製作品の組み立てや点検ができる。	使用目的について製作品の構造を工夫している。	よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術についての知識を身に付けている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パソコンの特徴と利用についての知識を身につけている。適切なソフトウェアを用いて表現できる。	使用目的や使用条件に関して作品の設計を工夫している。	情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より安全な生活や社会の実現する材料と加工の技術の在り方について話し合い、自分の考えを発表することができるようにする。	材料と加工の技術が安全な生活や社会の実現に果たす役割や影響を踏まえ、材料と加工の技術の概念を説明できるようにする。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造できるようにする。情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換についての科学的な原理・法則とエネルギー変換の基礎的な技術の仕組みを説明できるようにする。	エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができるようにする。	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けた情報の技術による問題の解決について、自分の考えを発表できるようにする。	情報の技術がよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に果たす役割や影響を踏まえて、情報の技術の概念を説明できるようにする。	情報に関する技術を身につけ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫創造できるようにする。

令和4年度 技術・家庭科（家庭分野） 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生活や技術に対するの関心を持ち意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。
- ・視聴覚教材、ICT機器の活用により学習効果を高めることが出来た。

(2) 課題

- ・製作や実習を通して、自ら調べ、確認することで生活を創造する姿勢を育成する。
- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進度を可視化することで効率を上げ達成感を得られるようにする。
- ・パソコンを活用して効率よく調べ学習等、効率的に行えるようにする。
- ・調理実習を行うことが難しい中、家庭での課題を行うことで経験する機会を作る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。製作に必要な基本的な技能を身に付け、安全に作業することができる。	小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の生活と家族、消費生活、環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり工夫している。	自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に必要な栄養を満たす食事について理解するとともに、地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、手順書を読み解き、立体をイメージしながら作業できるようにする。	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。製作については、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できるようにする。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。	自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活の実現に向けて、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も全ての領域で目標値を上回っている。
- ・達成率は前年度より下回っているが、書くことの領域では前年度の値をほぼ維持している。
- ・ICT機器を活用した指導の工夫や、音読練習など基本文を繰り返し練習した成果が見られる。

(2) 課題

- ・1年生は全体的に目標を大きく上回っているが、他の領域に比べて必要な情報を読み取る力や聞き取る力（思考・判断・表現）が伸び悩んでいる。
- ・2年生は目標値を上回ってはいるものの、昨年度と比較すると下降している。基本的な文法の定着を図り、要点をつかむ力（思考・判断・表現）、書く力を身につけることが課題。
- ・3年生は全体的に目標を大きく上回っているが、他の領域と比較すると必要な情報を読み取る力（思考・判断・表現）の伸び幅が小さい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より3.4ポイント下回っている	上回っている (第1学年時)	/
第3学年	前年度より2.6ポイント下回っている	上回っている (第2学年時)	/ (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特徴を理解できるようになっている。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特徴を理解できるようになりつつある。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特徴を理解できるようになっている。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。	短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	リスニング教材等を活用し、まとまりのある英文を聞いたり、読んだりする練習を行い、情報を読み取る（聞き取る）練習の機会を増やす。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	ICT 機器を活用し、生徒が自国や他国の文化に関心をもてるようにする。生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	リスニング教材等を活用し、まとまりのある英文を聞いたり、読んだりする練習を行い、情報を読み取る（聞き取る）練習の機会を増やす。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	ICT 機器を活用し、生徒が自国や他国の文化に関心をもてるようにする。生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	まとまりのある英文を聞いたり、読んだりする練習に加えて、グラフなどの資料から情報を読み取る練習の機会を増やす。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	ICT 機器を活用し、生徒が自国や他国の文化に関心をもてるようにする。生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。